

Case3 乳頭状病変における細胞診

内野 有子(富士市立中央病院診療技術部臨床検査科)

【年齢】70歳代

【性別】女性

【採取部位】左側舌側縁部

【採取器具】歯間ブラシ

【標本作製法】LBC法(BDシュアパスTM)

【臨床所見】24×20 mm大の広基性でカリフラワー状の腫瘤を認め、
周囲に1mmの厚みの白色病変および硬結を認めた。

【臨床診断】Squamous cell papilloma or carcinoma